

5 調布市民福祉ニーズ調査(アンケート調査)からえた状況

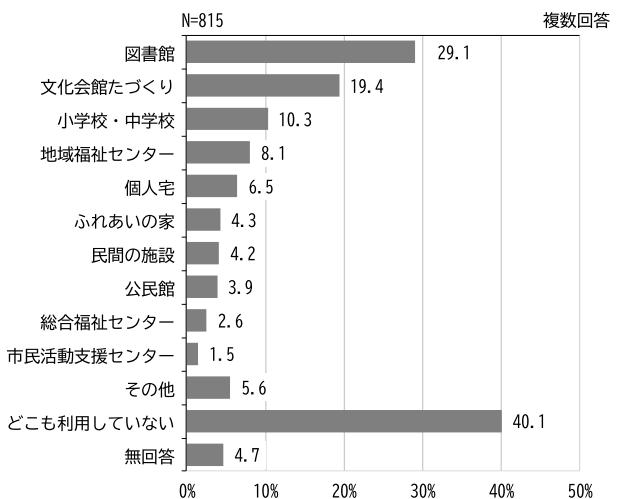
対象:市民(18歳以上), 高齢者(65歳以上), 障害のある方・障害児の保護者

実施結果:令和4年10月実施 調査人数6,000人 有効回答数3,129人(52.2%)

(1) 調布市民の福祉意識と地域生活について

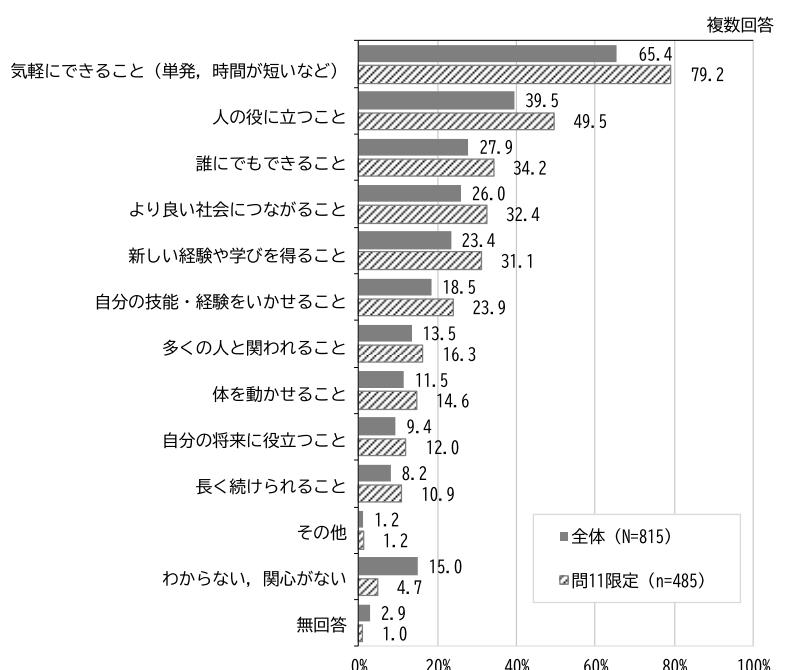
利用している身近な拠点

- 「図書館(29.1%)」「文化会館たづくり(19.4%)」、「小学校・中学校(10.3%)」が続いている。



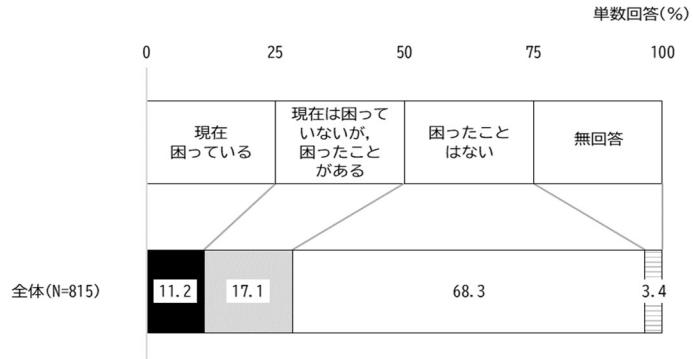
地域活動・ボランティア活動に参加する場合に重視すること

- 「気軽にできること(単発, 時間が短いなど)(65.4%)」が最も多く、「人の役に立つこと(39.5%)」が続いている。
- 地域活動にひとつでも「取り組んでいない」人, かつ, 活動に「興味あり」とした人は, 全体と比べて「気軽にできること(単発, 時間が短いなど)(79.2%)」が13.8ポイント, 「人の役に立つこと(49.5%)」が10.0ポイント高くなっている。



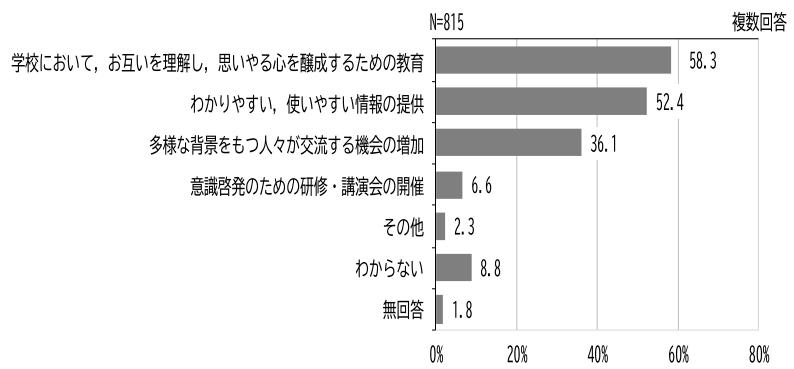
経済的な理由で困った経験

- 「現在困っている（11.2%）と「現在は困っていないが、困ったことがある（17.1%）」を合わせた『困ったことがある』は28.3%である。



心のバリアフリー化の取組

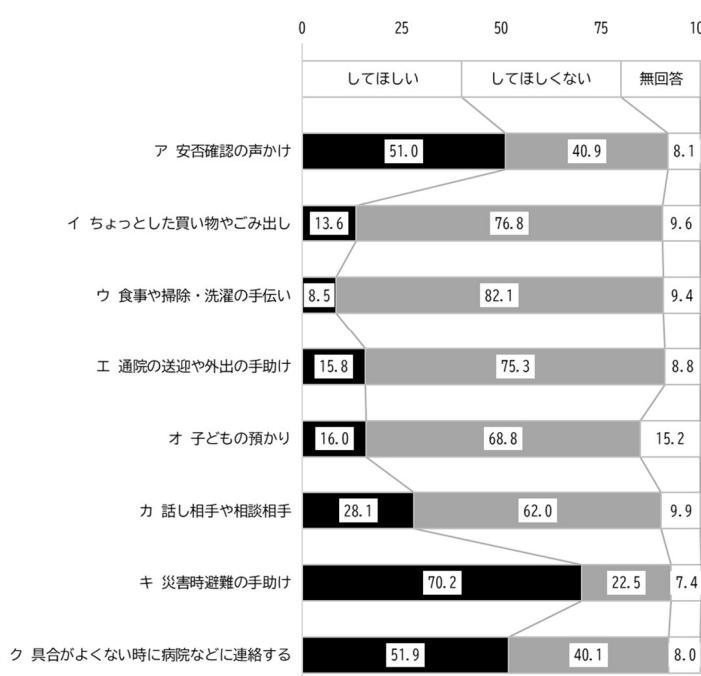
- 心のバリアフリー化（病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除くこと）に向けた取組は、「学校において、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育（58.3%）」が最も多く、「わかりやすい、使いやすい情報の提供（52.4%）」が続いている。



まわりの人から手助けをしてほしい

- 『災害時避難の手助け（70.2%）』
- 『具合がよくない時に病院などに連絡する（51.9%）』
- 『安否確認の声かけ（51.0%）』

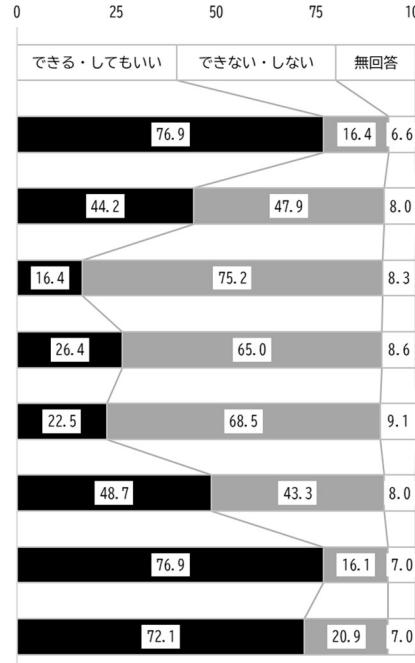
N=815 設問毎の単数回答 (%)



自分が手助けできる・してもいい

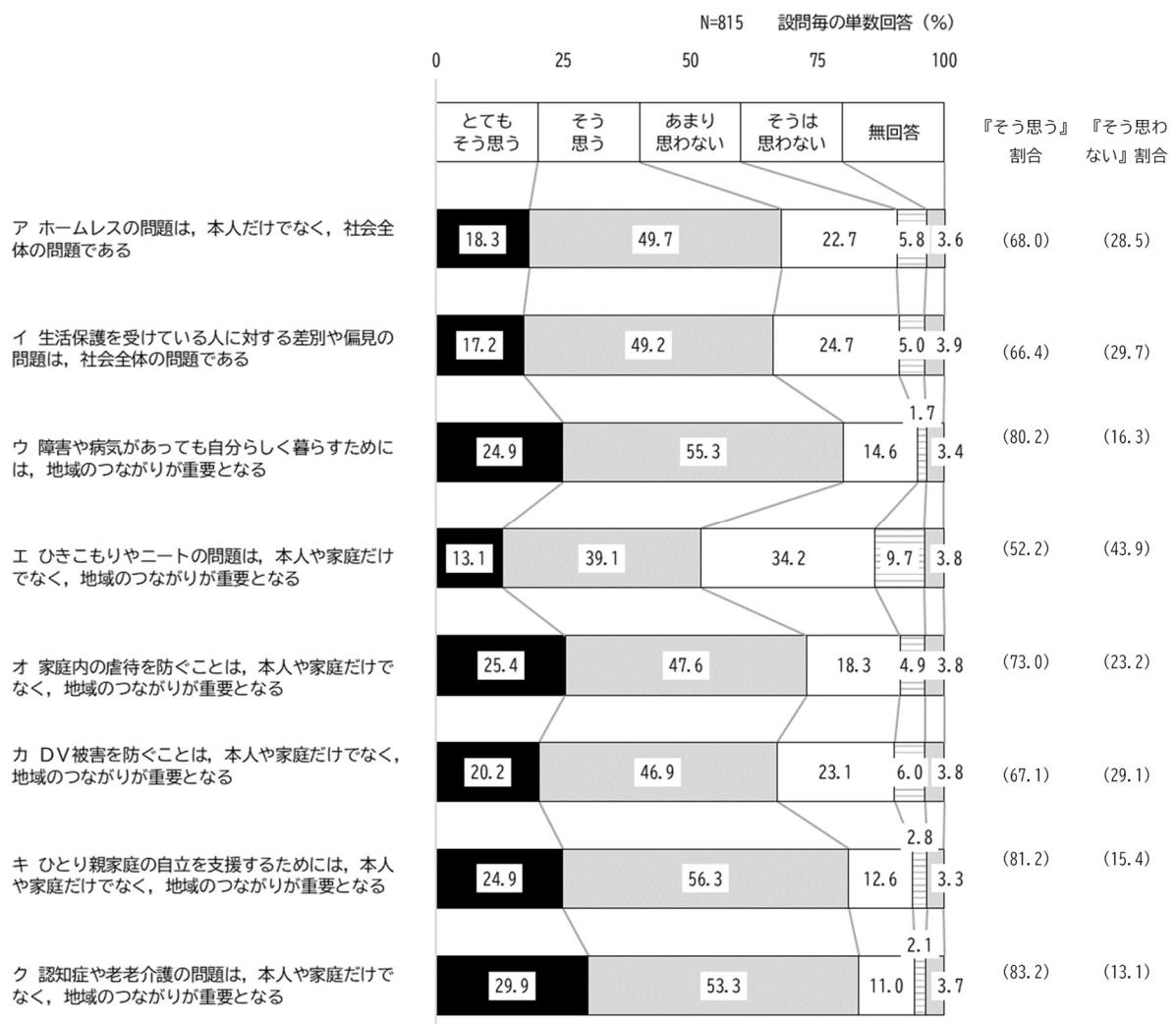
- 『安否確認の声かけ（76.9%）』
- 『災害時避難の手助け（76.9%）』
- 『具合がよくない時に病院などに連絡する（72.1%）』

N=815 設問毎の単数回答 (%)



地域のつながりが重要な状況

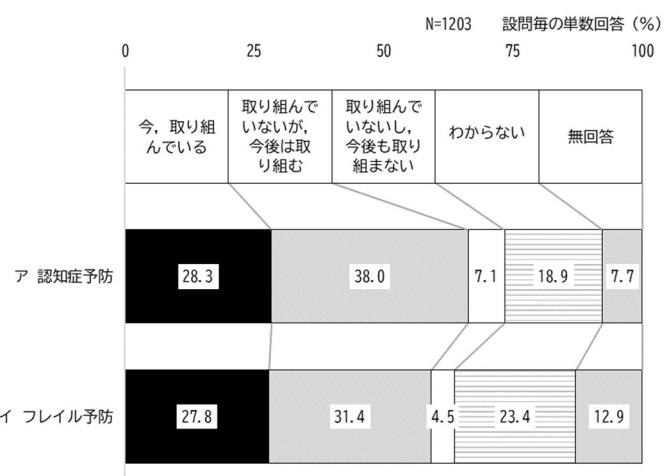
- 「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、『認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる（83.2%）』が最も多く、『ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる（81.2%）』、『障害や病気があっても自分らしく暮らすためには、地域のつながりが重要となる（80.2%）』と続いている。



(2) 高齢者の福祉意識と地域生活について

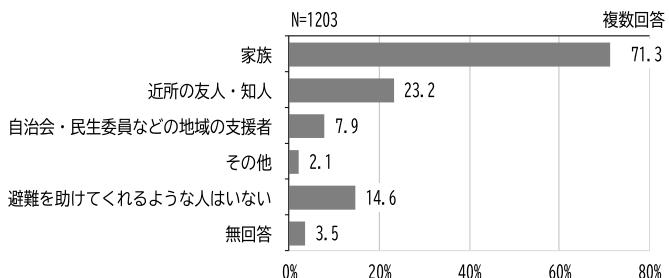
健やかに暮らすための取組

- 『認知症予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む(38.0%)」が最も多く、「今、取り組んでいる(28.3%)」が続いている。
- 『フレイル予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む(31.4%)」が最も多く、「今、取り組んでいる(27.8%)」が続いている。



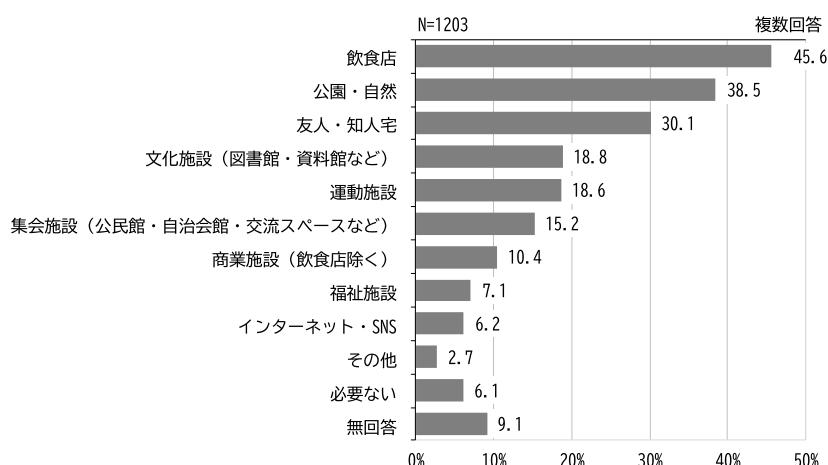
緊急時に避難を助けてくれる人

- 「家族(71.3%)」が最も多く、「近所の友人・知人(23.2%)」、「避難を助けてくれるような人はいない(14.6%)」が続いている。



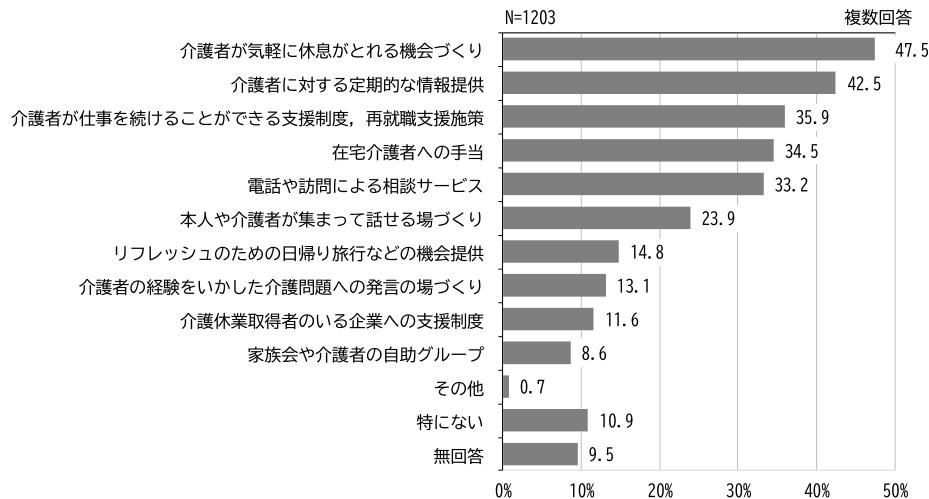
一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所(自宅以外)

- 「飲食店(45.6%)」が最も多く、「公園・自然(38.5%)」、「友人・知人宅(30.1%)」が続いている。



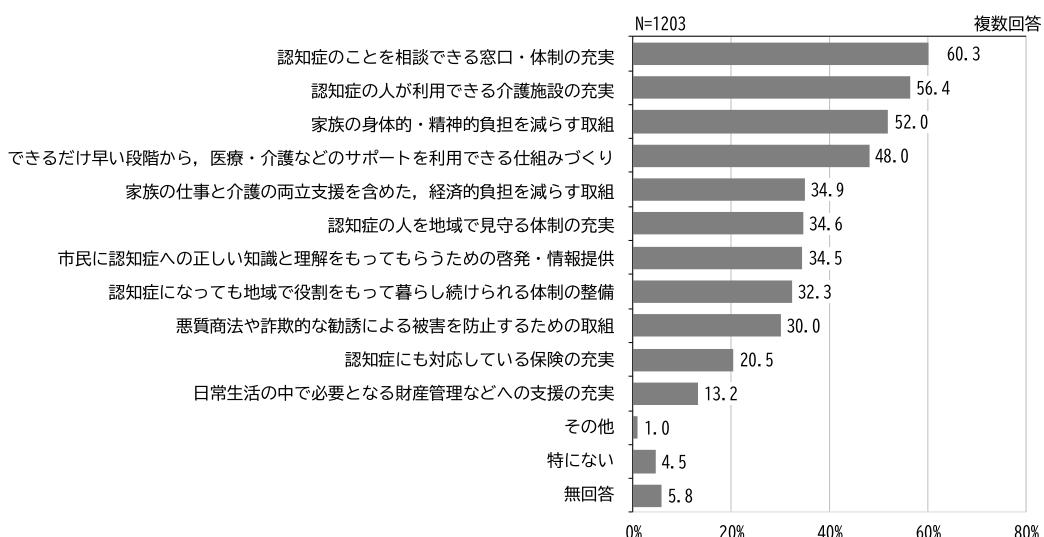
介護者への支援策

- 「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり（47.5%）」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供（42.5%）」、「介護者が仕事を続けることができる支援制度、再就職支援施策（35.9%）」が続いている。



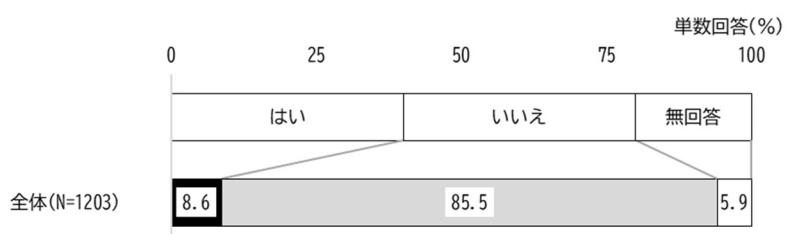
認知症の人やその家族を支える重点施策

- 「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実（60.3%）」が最も多く、「認知症の人が利用できる介護施設の充実（56.4%）」、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組（52.0%）」が続いている。

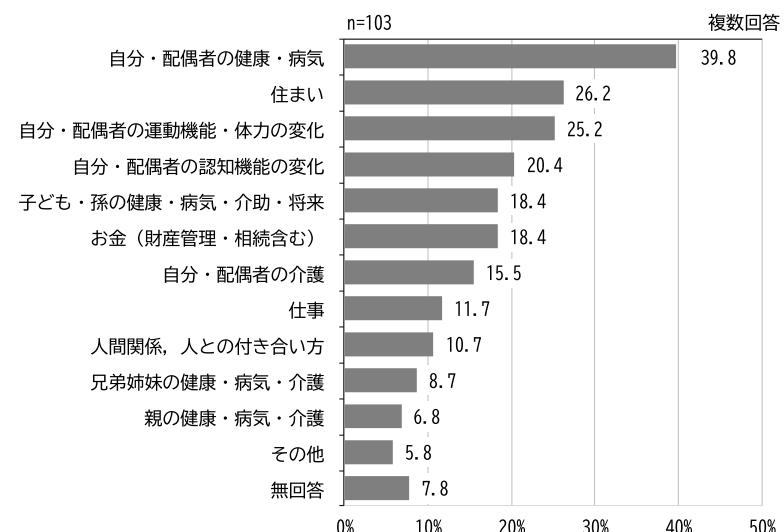


相談先がわからない生活上の困りごと

- 相談先がわからない生活上の困りごとの有無は、「はい(8.6%)」、「いいえ(85.5%)」である。



- 相談先がわからない生活上の困りごとを抱えている人の困りごとの内容は、「自分・配偶者の健康・病気(39.8%)」が最も多く、「住まい(26.2%)」、「自分・配偶者の運動機能・体力の変化(25.2%)」が続いている。



(3) 障害のある方の福祉意識と地域生活について

医療機関（歯科を含む）の受診で困ること

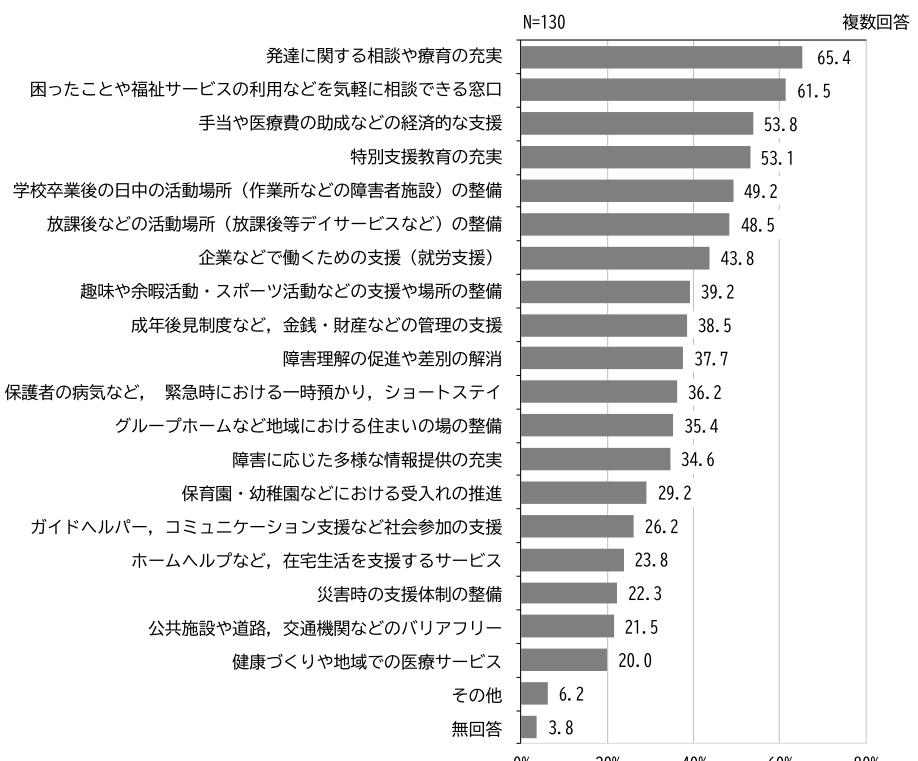
- 身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病、障害児保護者とともに「医療費や交通費の負担が大きい」、知的障害では「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」ことを挙げている。

(%)

		かかる医療機関（かかりつけ医）が日常的に健康について相談で	相談できつける歯科医（がなない健康や治療について）	定期的な健康診断を受けられない	定期的な歯科健診を受けられない	専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身	が障害的理由に診療や健診などを断られたこと	通院するときに介助してくれる人がいない	医療費や交通費の負担が大きい	医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい	その他	特にな	無回答
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	9.4	4.7	3.3	2.8	9.9	2.8	5.6	16.0	8.0	8.0	46.0	7.5
	身体障害（65歳以上） (N=237)	6.3	6.8	2.5	2.5	4.2	1.3	3.0	9.7	4.6	3.0	57.8	13.1
	知的障害 (N=182)	9.9	9.9	7.1	5.5	5.5	2.2	3.8	9.9	13.7	6.6	51.6	13.2
	精神障害 (N=177)	7.3	9.0	8.5	6.2	6.8	1.7	5.1	18.6	9.0	10.7	44.6	13.6
	難病 (N=172)	5.2	5.8	0.6	2.3	4.1	0.6	1.7	20.3	2.3	4.7	55.2	11.6
障害児保護者 (N=130)		6.9	10.8	3.1	4.6	15.4	7.7	5.4	16.2	8.5	11.5	40.8	6.9

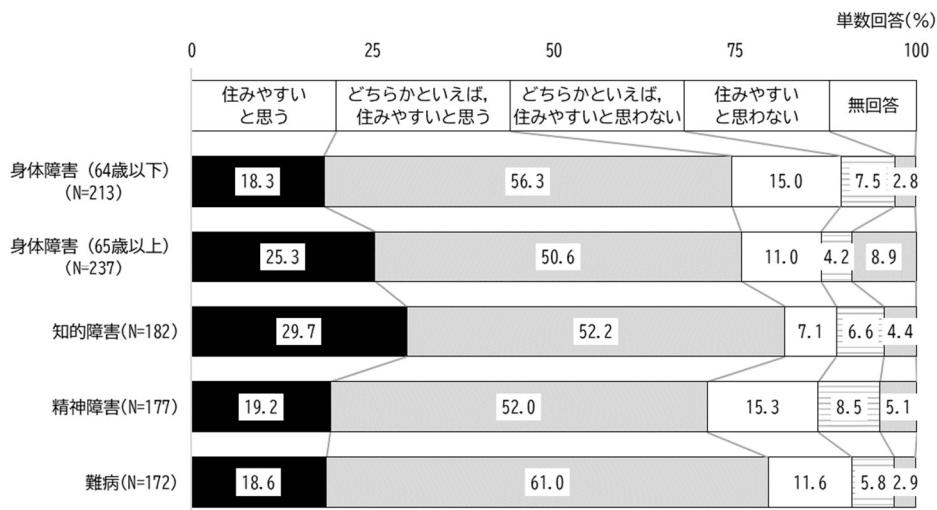
重要な市の障害児福祉施策（サービス）（障害児保護者）

- 「発達に関する相談や療育の充実（65.4%）」が最も多く、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（61.5%）」、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（53.8%）」が続いている。



調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか

- 身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病で「住みやすいと思う」と「どちらかといえば住みやすいと思う」を合わせた『住みやすい』の割合が多く、それぞれの割合は7割から8割台となっている。



将来の暮らし方の意向

- 身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「ひとり暮らし、または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。障害児保護者が希望するお子さんの暮らし方も「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。
- 知的障害は「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」が最も多い。また、「グループホームで生活する」が2割近くくなっている。

(%)

		る親 ※や 兄弟 など の家 族と 一 緒 に生 活 す	とひ 一 緒 に暮 らし 、ま たは 自 分 の 配 偶 者	グ ル ー プ ホ ー ム で 生 活 す	入 所 施 設 で 生 活 す	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (N=213)	28.2	45.5	4.7	2.8	2.8	14.6	1.4
	身体障害 (65歳以上) (N=237)	24.9	43.0	0.4	6.8	2.5	15.6	6.8
	知的障害 (N=182)	34.6	18.1	19.2	5.5	1.6	19.8	1.1
	精神障害 (N=177)	23.2	48.6	1.1	1.1	6.8	15.3	4.0
	難病 (N=172)	25.6	50.0	2.3	1.2	1.2	14.5	5.2
	障害児保護者 (N=130)	18.5	45.4	13.1	0.8	3.8	18.5	0.0

※障害児保護者アンケートの選択肢は「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する」

※※ 同 「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する」

生活の中の活動機会

- 生活の中の活動機会について、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計をみると、身体障害（64歳以下）、知的障害、難病、障害児保護者は『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』、身体障害（65歳以上）は『友人・知人との交流』、精神障害は『スポーツ・運動をする機会』が多くなっている。

<「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の合計割合> (%)

障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (N=213)	1位		2位	
		美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (53.5)		ウ、工以外の趣味や習いごと (52.6)	
	身体障害 (65歳以上) (N=237)	友人・知人との交流 (39.7)		美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (38.8)	
	知的障害 (N=182)	美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (54.9)		スポーツ・運動をする機会 (53.8)	
	精神障害 (N=177)	スポーツ・運動をする機会 (63.3)		美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (59.8)	
	難病 (N=172)	美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (47.7)		スポーツ・運動をする機会 (45.9)	
	障害児保護者 (N=130)	美術・音楽などの文化芸術活動の機会 (74.6)		友人・知人との交流 (71.6)	

障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面

- 身体障害（64歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮」、身体障害（65歳以上）と難病は「特に感じない」、知的障害は「まちなかでの人の視線」、精神障害は「仕事や収入」、障害児保護者は「教育・保育の機会」が最も多くなっている。

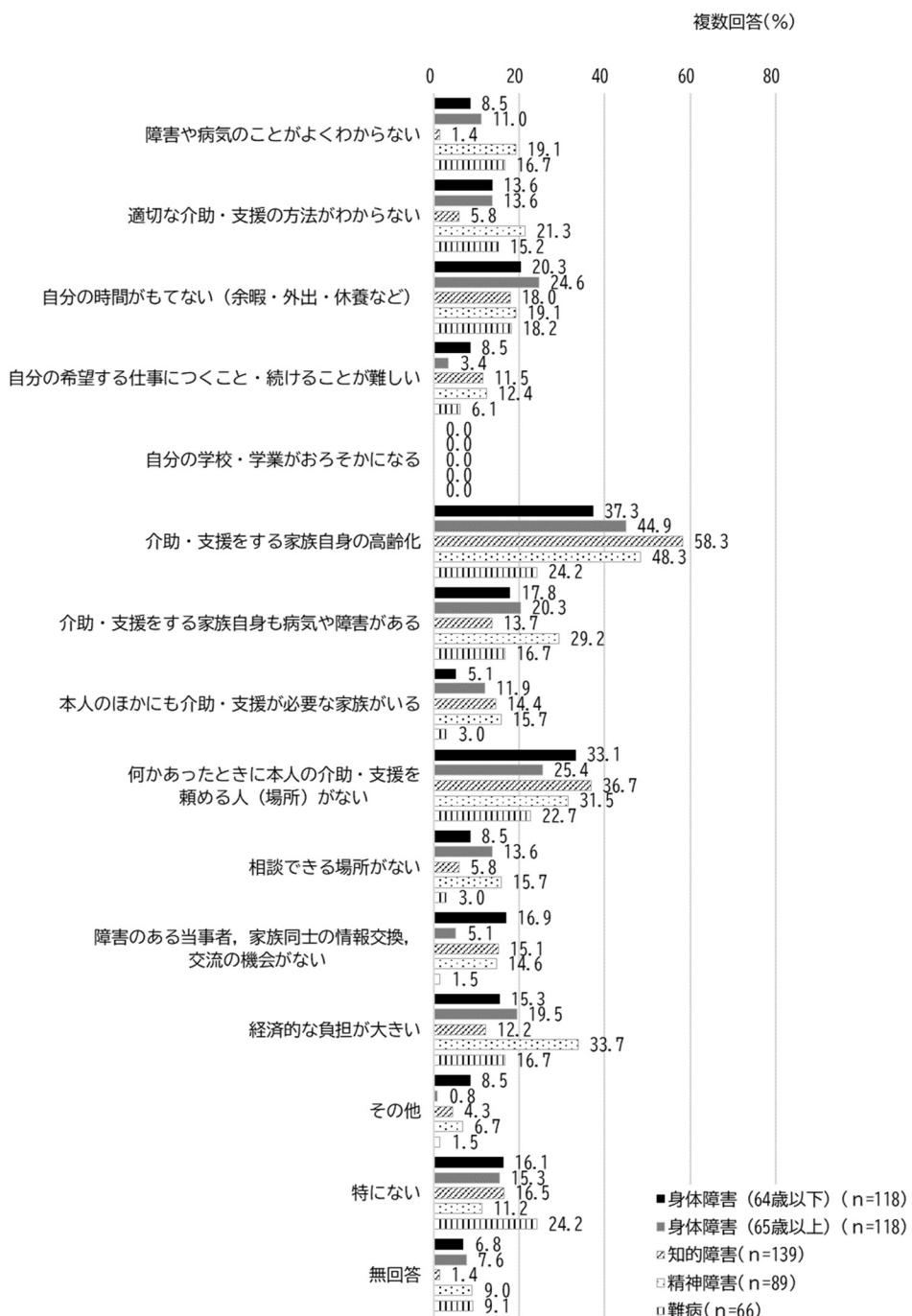
(%)

障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (N=213)	教育の機会※	仕事や収入	民間の習いごと・教室	近所付き合いや地域の行事・活動	店での扱いや店員の応対・態度	まちなかでの人の視線	交通機関や建物のつくりの配慮	行政職員の応対・態度	その他	特に感じない	無回答
		8.9	23.0	-	4.7	16.9	23.0	29.1	9.9	8.5	28.6	7.5
	身体障害 (65歳以上) (N=237)	3.0	4.2	-	4.6	8.4	6.3	19.0	5.1	2.1	53.2	16.5
	知的障害 (N=182)	15.9	29.7	-	15.4	14.8	32.4	11.0	8.2	1.6	29.7	13.7
	精神障害 (N=177)	10.2	37.9	-	11.9	13.0	17.5	15.3	8.5	6.8	29.4	11.9
	難病 (N=172)	5.8	11.6	-	4.7	6.4	9.3	19.8	5.8	2.9	47.7	17.4
	障害児保護者 (N=130)	50.8	-	39.2	16.9	10.0	34.6	19.2	6.9	6.9	19.2	2.3

※障害児保護者アンケートの選択肢は「教育・保育の機会」

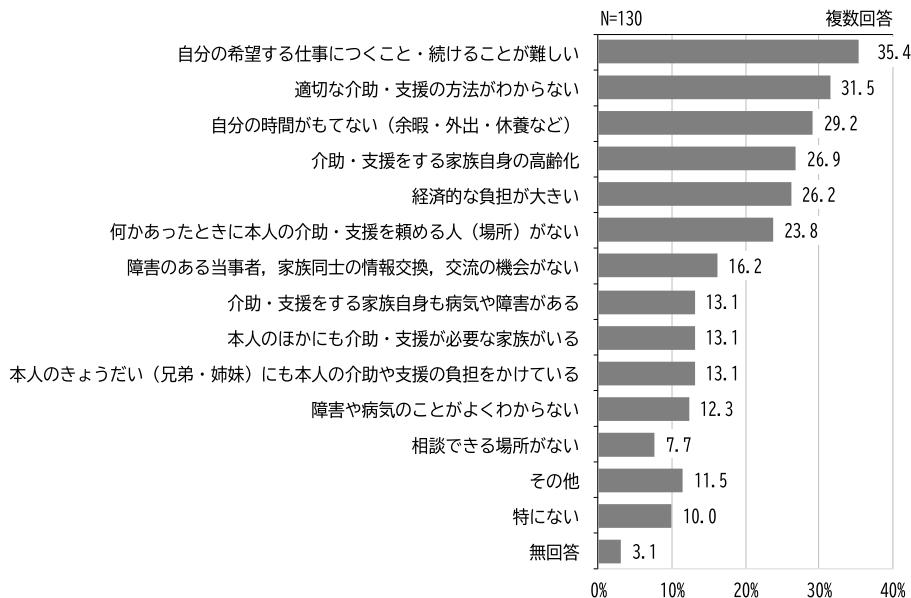
介護者の不安や困りごと

- 身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病とともに「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く、それぞれの割合は3割から4割台となっている。難病は「介助・支援をする家族自身の高齢化」と「特にない」が同率の数値となっている。
- 「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」がすべての障害等別で2割から3割台となっている。



介護者の不安や困りごと（障害児保護者）

- 「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい（35.4%）」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない（31.5%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（29.2%）」が続いている。



避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況について、「確認している」割合は、難病は7割、身体障害（64歳以下）と身体障害（65歳以上）は6割、障害児保護者は8割を超えていている。
- 知的障害、精神障害は「確認していない」の割合が5割前後と多くなっている。

		（%）		
		確 認 し て い る	確 認 し て い な い	無 回 答
高齢者 (N=1203)		71.8	24.3	3.9
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	63.8	33.3	2.8
	身体障害（65歳以上） (N=237)	66.7	30.4	3.0
	知的障害 (N=182)	45.6	50.5	3.8
	精神障害 (N=177)	45.8	47.5	6.8
	難病 (N=172)	74.4	20.9	4.7
障害児保護者 (N=130)		84.6	13.8	1.5

(4) 新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響について（調査共通）

新型コロナウイルス感染症の流行によって「増えた」こと

- 「増えた」ことの割合が最も多い項目は以下のとおりである。
- 市民は『興味や関心のあることに充てる時間』
- 高齢者は『自宅での趣味・学習・教養などに充てる時間』
- 身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は『人と電話やラインなどで話す頻度』
- 知的障害と障害児保護者は『趣味や好きなことをする時間』

<「増えた」項目> (%)

		1位	2位
市民	(N=815)	興味や関心のあることに充てる時間 (28.2)	人と電話やLINEなどで話す頻度 (22.5)
高齢者	(N=1203)	自宅での趣味・学習・教養などに充てる時間 (21.5)	家族との会話や連絡の頻度 (電話などを含む) (18.6)
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	人と電話やラインなどで話す頻度 (17.8)	趣味や好きなことをする時間 (13.6)
	身体障害（65歳以上） (N=237)	人と電話やラインなどで話す頻度 (12.2)	趣味や好きなことをする時間 (3.8)
	知的障害 (N=182)	趣味や好きなことをする時間 (12.6)	人と電話やラインなどで話す頻度 (9.3)
	精神障害 (N=177)	人と電話やラインなどで話す頻度 (17.5)	趣味や好きなことをする時間 (14.1)
	難病 (N=172)	人と電話やラインなどで話す頻度 (13.4)	趣味や好きなことをする時間 (9.9)
障害児保護者 (N=130)		趣味や好きなことをする時間 (16.2)	スポーツ・運動などで体を動かす時間 (3.8) 保護者の休息（レスパイト）の機会 (3.8)

新型コロナウイルス感染症の流行によって「減った」こと

- 「減った」ことの割合が最も多い項目は以下のとおりである。
- 市民、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は『人と直接会って話す頻度』。
- 高齢者は『体力・筋力』、障害児保護者は『保護者の休息（レスパイト）の機会』。

<「減った」項目> (%)

		1位	2位
市民	(N=815)	人と直接会って話す頻度 (70.6)	興味や関心のあることに充 てる時間 (16.9)
高齢者	(N=1203)	体力・筋力 (50.1)	趣味活動や社会参加の外出 の頻度（スポーツ・ボラン ティア・通いの場など） (47.9)
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	人と直接会って話す機会の 頻度 (61.5)	スポーツ・運動などで体を 動かす時間 (34.3)
	身体障害（65歳以上） (N=237)	人と直接会って話す機会の 頻度 (58.2)	人と電話やラインなどで話 す頻度 (30.8)
	知的障害 (N=182)	人と直接会って話す機会の 頻度 (41.8)	仕事や通所以外での外出回 数 (34.1)
	精神障害 (N=177)	人と直接会って話す機会の 頻度 (55.9)	仕事や通所以外での外出回 数 (40.1)
	難病 (N=172)	人と直接会って話す機会の 頻度 (62.2)	仕事や通所以外での外出回 数 (31.4) スポーツ・運動などで体を 動かす時間 (31.4)
障害児保護者		保護者の休息（レスパ イト）の機会 (48.5)	スポーツ・運動などで体を 動かす時間 (44.6)

(5) デジタルの活用について（調査共通）

市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先

- 市民、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病、障害児保護者とともに「市の広報紙・チラシ」が最も多く、次いで「市のホームページ」となっている。
- 身体障害（65歳以上）、知的障害は「市の広報紙・チラシ」が最も多く、次いで「特にない、情報は入手していない」となっている。

(%)

		市のホームページ	市の広報紙・チラシ	市役所・相談機関などの窓口	ラジオ（ケーブルテレビを含む）	家族、友人・知人からの口コミ	SNS	その他	特にない、情報は入手していない	無回答
市民	(N=815)	32.0	61.7	3.2	4.4	12.5	8.0	0.5	20.9	1.7
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	37.1	46.5	17.4	3.8	12.7	8.9	3.8	21.6	3.8
	身体障害（65歳以上） (N=237)	18.6	49.4	11.4	1.3	16.5	2.1	1.3	26.2	10.1
	知的障害 (N=182)	13.7	36.3	11.0	4.9	22.5	4.9	2.2	29.1	12.1
	精神障害 (N=177)	26.0	45.8	27.1	5.6	11.9	6.8	4.5	22.6	6.2
	難病 (N=172)	37.2	49.4	7.0	4.1	9.3	10.5	0.6	17.4	7.6
障害児保護者	(N=130)	50.8	56.9	16.2	3.1	29.2	14.6	5.4	7.7	0.8

オンラインで開催する講座やイベントへの意向

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催について、市民、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病で「参加しやすくなる」が2割を超えており、障害児保護者は約5割と多くなっている。身体障害（65歳以上）と知的障害は1割台にとどまる。

(%)

		参加しやすくなる	変わらない	参加しづらくなる	無回答
市民	(N=815)	32.1	57.7	7.0	3.2
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下） (N=213)	28.6	57.3	6.1	8.0
	身体障害（65歳以上） (N=237)	14.3	52.7	11.8	21.1
	知的障害 (N=182)	11.5	57.1	14.8	16.5
	精神障害 (N=177)	30.5	52.5	6.8	10.2
	難病 (N=172)	27.3	53.5	3.5	15.7
障害児保護者	(N=130)	49.2	46.9	3.1	0.8